長洲町立長洲小学校　校長便り　№155

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年2月13日(火)

精神的な鍛練を!!

持久走大会の練習の一コマです。毎日のように走る子供達の姿に、職員室からは職員が応援し、運動場では友達同士応援し合う姿に、私も心が温かくなりました。しかし、腹が立つこともありました。友達や先生がいない場所では真剣に走らない人。あるいはこんなことを言う子もいました。「本番では真剣に走る。」言語道断です。これでは心は育ちません。練習では本気で走らずに、本番で良い結果が出せたとしても、それにどれ程の価値があるのでしょうか？　ずるい方法や行動で結果が出たとしても、メッキは必ず剥がれます。精神的な成長はありません。

スポーツや日本の○○道と呼ばれる稽古事は、技術と並行して精神面を重要視することが多いです。技術と精神は表裏一体のものであり、どちらが欠けても真の成長は望めません。

子供達の成長において、教師と保護者、地域が同じ視点に立って子供達を支えることが、最大の効果を生むのです。

私の中学時代　～趣味の広がり～

心身の成長や行動・交友範囲の広がりに伴い、多くのことに興味をもち始め、必然的に趣味が広がっていきました。当時、興味のあったものをざっと紹介します。音楽鑑賞、映画鑑賞、写真、模型、天文学、テニス……。挙げればきりがないのですが、どれも深くのめり込むことはありませんでした。というのも、お金や時間、場所、仲間が必要だったりするものが殆どで、中学生の私には全く手が出ないものもありました。音楽鑑賞は先にお話ししたとおりで、友達に頼ることが多かったですし、映画も一年に一本観られればいい方でした。また、天体望遠鏡なんて高くて買ってもらえず、もともと「写真に興味があって天体写真も撮りたい」イコール天体望遠鏡だったので、専門的に勉強しようと思ったわけでもありません。でも、興味をもつといろいろと調べたくなるもので、その頃たくさんの星座や星雲、星団を覚えました。また、写真については家にあったカメラで写真を撮らせてもらい、友達の家にモノクロフィルムの現像設備があったので、そこで現像、焼き付けの仕方を教えてもらって楽しみました。模型は小学校の頃から大好きで、特にプラモデルは数多く作りました。当時から、色を塗っていたのですが、あの頃は絵の具にシンナーを混ぜて塗ったりしていました。専用の塗料が高かったからです。母がしていた内職の道具にシンナーがあったので、それを拝借したのです。プラスチックに色を塗る場合、隠蔽力を強くするためには濃い塗料を使います。更に、水に溶けないようにするために有機溶剤系のものが多かったのです。後でこっぴどく叱られることになるのですが…。テニスも友達がやっていたから始めたのですが、これもテニスコートが遠くにあったため、また、「ラケット買って！」とおねだりしても、毎回却下されていましたので…。今でもやっているものが多く、特にカメラは手軽にデジカメが使えるようになってからは、色々な場所で撮っています。

子供達は成長するにつれて趣味も広がり、それに伴いお金も要求するようになります。何でも買い与えるのはよくありません。要不要の判断をしっかりする必要があります。かく言う私、「大人買い」する傾向（最近では ガチャガチャです。）があり、あの頃買えなかったものを、こっそり買ってしまいます。怒られそうで、毎日ヒヤヒヤです。

シリーズ「自分を語る」#155

東京珍道中の後、令和元年が穏やかに暮れていく?とはなりませんでしたね。中国武漢での感染症のニュースが連日報道され、何か不気味な感じがしていました。そのニュースを見ながら、「俺の身体のだるさは何か病気だったのか?」等と考えながら家族に話すと、「単なる二日酔いやろ。」と一蹴されました。

話が飛びますが、皆さんは知っているでしょうか？　私が20代後半くらいまでは、飛行機の中でも喫煙がOKだったんですよ。驚かれる方も多いのではないでしょうか。飛行機は離陸後一気に高度を上げるため、シートベルトを締めなければなりません。高速で巡行できる高度まで来るとシートベルト着用のサインが消え、同じようなタイミングで禁煙のサインも消えます。すると、あちらこちらから、煙草の煙が立ち上り始めるのです。実は私澤田も35歳まで煙草を吸っていましたので、飛行機の中でも吸ったことがあります。今考えてみると、周りの人達からはそこそ煙たがられていたのではないかと思います。現在では煙草の人体に与える影響について研究が進み、特に副流煙による受動喫煙が問題となって、多くの公的施設で全面禁煙が実施されていますね。私も喫煙していた者ですから、愛煙家の皆さんの気持ちが分からないではないのですが、やはり文化的にも成熟してきた現代社会において、マナーを守る喫煙が求められているようです。

話をもとに戻します。年が明け、令和2年1月15日、ついに日本でのコロナウイルス感染が確認されました。この時点でかなり世界では脅威となっていましたので、日本でも感染の拡大は時間の問題ではないかと言われていました。

当時、私は荒尾第一小教頭4年目で、現在長洲小学校でも準備が進んでいる「PTA主催強歩会」が数回にわたって実施されていました。既に多くの参加申込みがあり、班編成、サポート編成等が行われていました。実施は令和2年2月22日（土）です。テレビやネットの報道ではコロナウイルスの脅威が毎日伝えられており、日本全国で感染報告がなされていました。当然、強歩会を実施するかどうかという判断に迫られるのですが、当時のPTA執行部の皆さんはこう仰いました。「外だから大丈夫ですよ。」という訳で、予定通りの実施になりました。

2月22日当日、天気は雨。また、実施するかどうかの判断になるのか?　とはならず、行事の趣旨等に鑑み、レインコートを着て実施。不思議なもので、実際に動き始めると何とかなっていくものです。と言うより、参加者の皆さんが何とかしていったのだと思います。モチベーションというかやる気というか、参加者全員の価値目標が統一されていたようでした。大きな事故ケガも無く、全員踏破し、ゴールでの感動的なシーンが印象に残る行事となりました。

行事実施後、参加者の皆さんから続々と行事の振り返りが送られてきました。「挑戦してよかったです。」、「こんな達成感を味わったのは初めてです。」、「子供達に今の気持ちを忘れないで欲しいです。」等の前向きな言葉が綴られており、指導者としては嬉しい締めくくりとなりました。

この5日後の2月27日、信じられないニュースが報じられます。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）